

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目 的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

- 成 果**
1. デジタル画像の形成方法の研究開発
 - ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、文化財の光学的調査やガラス乾板からの画像取得を実施、成果報告書を編纂した。
 - イ) 文化財アーカイブズ研究室と連携し、『奈良国立博物館・東京文化財研究所共同研究成果報告《国宝 絹本著色十一面観音像》』を2016(平成28)年12月21日にウェブ公開した。また、『春日権現験記第一巻・第二巻 光学調査報告書』を2017(平成29)年3月31日付で刊行した。
 - ウ) 2016(平成28)年12月20日「文化財写真に関するワークショップ」を開催した。
 2. 文化財情報基盤の整備・充実
 - ア) ネットワーク機器及びソフトウェアに対し保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者と情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、3回の研修を開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティに関する業務については、各部・センターの情報システム部会員との連携により実施している。
 - イ) 大容量ストレージシステムDataCoreに対し、2016(平成28)年10月及び2017(平成29)年3月にストレージサーバを追加、容量を増強した。
 3. 文化財情報に関する調査研究
 - ア) 文化遺産国際協力センター及び無形文化遺産部と連携して、2017(平成29)年3月13日～16日にタイ文化省文化振興局の専門家を招へいし、文化財目録に関する事例調査を行った。
 - イ) これまで構築してきたウェブデータベース及びその構築過程についてまとめ、構築による情報発信力についての効果に関する調査を行い、成果を論文や学会等で発表した。
 4. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信
 - ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を実施した。28年度は、2件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、SNS (Facebook及びTwitter) を通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供した。
 - イ) 2016(平成28)年6月30日付で『東京文化財研究所年報』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。
 - ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーにおいて展示した。28年度は文化遺産国際協力センターによる「選定保存技術 一漆の文化財を守り伝えるために」と題した展示を実施した。また、28年度末には無形文化遺産部の担当によりパネル及び関連の小冊子を作成、2017(平成29)年3月29日にエントランスロビーでの公開を開始した。

ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップページ	6	久野健資料
2	『日本美術年鑑』所載物故者記事	7	『美術画報』所載図版データベース
3	ガラス乾板データベース	8	黒田記念館トップページ
4	『保存科学』	9	黒田清輝日記トップページ
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報	10	黒田清輝日記(日付別)

(平成28年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更新内容	関係部局
16.4.20	研究会「アート・アーカイブのいま」開催	文化財情報資料部
16.4.27	「ネパールにおける文化遺産被災状況調査事業成果概要報告書」掲載	文化遺産国際協力センター
16.5.2	「ミャンマーにおける文化遺産保護に関する拠点交流事業報告書」掲載	文化遺産国際協力センター
16.5.12	「ミャンマーの木造建築文化」掲載	文化遺産国際協力センター
16.5.12	「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」掲載	文化遺産国際協力センター
16.6.6	デジタルブック版『洋紙の保存と修復』公開	保存科学研究センター
16.6.7	"Workshops on Conservation and Restoration of Urushi objects 2016" 参加者募集	文化遺産国際協力センター
16.6.10	フィルム原板データベース公開	文化財情報資料部
16.6.10	『第一回特別展覧会目録、第二回特別展覧会目録〔合本〕』掲載	文化財情報資料部
16.9.7	無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会Ⅲ「現在に伝わる明治の超絶技巧」開催	無形文化遺産部
16.10.16	第50回オープンレクチャー開催	文化財情報資料部
16.10.12	中村傳三郎旧蔵資料データベース公開	文化財情報資料部
16.10.17	シンポジウム「シリア内戦と文化遺産―世界遺産パルミラ遺跡の現状と復興に向けた国際支援―」開催	文化遺産国際協力センター
16.12.21	奈良国立博物館・東京文化財研究所共同研究成果報告《国宝 絹本著色十一面観音像》公開	文化財情報資料部
16.12.27	"Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk" 参加者募集	文化遺産国際協力センター
17.1.10	国際研修「紙の保存と修復 2017」参加者募集	文化遺産国際協力センター
17.1.24	公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」開催	文化財情報資料部
17.1.31	研究会「考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築」開催	文化遺産国際協力センター
17.2.8	"International Course on Conservation of Japanese Textile" 参加者募集	文化遺産国際協力センター
17.3.10	文化財情報資料部 研究会「遊行上人縁起絵の諸相」開催	文化財情報資料部

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

- 論 文・福永八朗：「東京文化財研究所の文化財データベース―刊行物アーカイブを中心とした、アーカイブ・データベースの目的、要件およびその実現の方法について」『美術研究』419 pp.17-26 16.6
- ・小山田智寛ほか：「ウェブデータベースによる画像情報の公開―尾高鮮之助調査撮影記録を例に―」『保存科学』56 pp.155-164 17.3
- 発 表・福永八朗：「東京文化財研究所の広域ネットワークを利用した取り組み」広帯域ネットワーク利用に関するワークショップ「ADVNET2016」 16.10.14
- ・城野誠治「文化財写真に必要とする情報―写真で何を捉えられるのか―」文化財写真に関するワークショップ 16.12.20 ほか2件
- 刊行物・『春日権現験記第一巻・第二巻 光学調査報告書』17.3

- 研究組織 ○二神葉子、佐野千絵、津田徹英、塩谷純、小林公治、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治、福永八朗、小山田智寛、高橋佑太、竹花真由子、谷口每子、芦立麻衣子（以上、文化財情報資料部）
- 広報委員（情報システム部会）：佐野千絵（文化財情報資料部長）
- 各部署情報システム部会員：中村恵、中濱拓郎（以上、研究支援推進部）、安永拓世（文化財情報資料部）、飯島満（無形文化遺産部）、吉田直人（保存科学研究センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）
- 広報委員（年報部会）：佐野千絵（文化財情報資料部長）
- 各部署年報部会員：安川政和、林昌宏（以上、研究支援推進部）、小林公治（文化財情報資料部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、吉田直人（保存科学研究センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

- 目 的** 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。あわせてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。
- 成 果**
1. 全所的文化財情報を発信するため4半期ごとにアーカイブズWG協議会を開催した(2016(平成28)年4月21日、9月29日、12月20日、29年3月2日)。
 2. 資料閲覧室のレファレンス機能の拡充の一環として、音声視聴覚ブースを設置し、公開に向けて当研究所無形文化遺産部が所蔵する音声映像資料の資料閲覧室での視聴に対応するよう環境を整え、『音盤目録』をWeb上での公開と活用を見据えてデジタル化を行った。
 3. 刊行物アーカイブズシステムの運用評価を行い、成果公開のコンテンツとして、海外発信を念頭に置いて英文のともなう『在外日本古美術品保存修復事業 報告書』の公開のため担当部署との協議を行い(2016(平成28)年6月27日)、直近5年間の報告書のWeb上での公開を行うべく、掲載作品を収蔵する海外の美術館・博物館に対して公開に関する許諾申請を行った。
 4. 明治・大正期刊行の雑誌類や機器類の劣化に対して、サービスの低下を招かないように資料(とくに貴重書もしくはこれに準じる資料)についてはデジタル化を進めた。
 5. 所蔵『売立目録』について、収載内容が画像とともに検索できるシステムの運用評価と改良を行い、併行して収載内容のデータ入力を進めた。
 6. 所蔵の近現代の美術作品カード(絵葉書資料)のデジタル化を進めた。

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数
和漢書9,879件 洋書53件、展覧会図録・報告書等1,302件、雑誌29,985件(合計41,219件)
2. 年度内閲覧室利用状況
公開日総数137日・年間利用者合計923人

- 研究組織** ○津田徹英、佐野千絵、皿井舞、安永拓世、橘川英規、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、城野誠治、福永八朗(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人(保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、津村宏臣(客員研究員)

平成28年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成果
1. 2016(平成28)年11月4日、5日にかけて広く一般から聴講を募集し、第50回オープンレクチャー(かたちからの道、かたちへの道)を開催した。テーマは以下のとおりである。
 - ・橘川英規(文化財情報資料部研究員)「ドキュメンテーション活動とアーカイブズ『日本美術年鑑』をめぐる資料群とその発信について」
 - ・増渕鏡子(福島県立美術館学芸員)「よみがえるオオカミ―飯館村山津見神社・天井絵の復元をめぐる」
 - ・佐野千絵(文化財情報資料部長)「かたちを伝える技術―展覧会の裏側へようこそ」
 - ・岡田健(保存科学研究センター長)「記憶するかたち、見つけるかたち―文化財の意味と価値」
 2. 所外からの聴講者は11月4日は78名、5日には81名を得た。11月4日の60名のアンケート回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ80%、5日の75名の回答者のうち「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ85.4%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、佐野千絵、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、皿井舞、安永拓世、橘川英規、田所泰、福永八朗、田中潤、野田吉郎、小山田智寛、高橋佑太、阿部朋絵(以上、文化財情報資料部)

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (△03)

- 目 的** 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。あわせて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。
- 成 果**
1. 映像資料については、再生不可となることが危惧されるHi 8(ハイエイト)を中心に媒体変換を行い、DVD19枚を作成した。
 2. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡テープ80時間分についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
 3. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープの内、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
 4. 無形文化遺産関連の映像資料160枚(作成DVD37枚・作成BD123枚)を所蔵資料として新たに登録した。
- 研究組織** ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規、伊藤純、橋本かおる(以上、無形文化遺産部)

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

目的 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

成果 1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、刊行物等で情報発信を行った。



第40回世界遺産委員会 (トルコ・イスタンブール)

- ・2016 (平成28) 年7月10日～15日、17日 第40回世界遺産委員会 (イスタンブール)
 - ・2016 (平成28) 年10月24日～26日 同・再開審議 (パリ)
 - ・2016 (平成28) 年12月13日～14日 ACCU奈良主催国際会議「アジア太平洋地域における文化遺産保護人材養成の実情と課題」
 - ・2017 (平成29) 年1月28日 金沢大学主催「世界遺産と共に生きる」シンポジウム
2. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の調査を行った。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、情報共有を行った。
- ・2017 (平成29) 年1月13日 岩手県教育委員会 (世界遺産の管理及び構成資産の拡張についての調査)
 - ・2017 (平成29) 年2月12日～16日 ヴァチカン美術館 (文化財保護及び情報管理活用についての調査)
 - ・2017 (平成29) 年3月6日 松本市文化スポーツ部文化振興課 (国内推薦候補選定の取り組み)
3. 対訳法令集シリーズの刊行：本年度はトルコについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。
4. 『世界遺産用語集 (改訂版)』の刊行：2015 (平成27) 年度に刊行した『世界遺産用語集』の項目を改め、最新情報を盛り込んだ改訂版を市販本として刊行し、広く情報発信を行った。

発表・『世界遺産年報2017』所収「第40回世界遺産委員会ニュース」への取材協力にて成果公表を行った。

刊行物・『各国の文化財保護法令シリーズ [21] トルコ』東京文化財研究所 17.3
 ・『世界遺産用語集 (改訂版)』東京文化財研究所 17.3

研究組織 ○江村知子、中山俊介、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、増淵麻里耶、橋本広美、半戸文 (以上、文化遺産国際協力センター)、二神葉子 (文化財情報資料部)

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財情報資料部

公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」(①シ04の一部として実施)

シ04プロジェクトで行っている諸研究のうち、今年度は南蛮漆器を対象として、2日間にわたり公開研究会を実施し、12本の個別発表と全体討議を行った。美術史研究者のみならず、修復家や制作者、また自然科学研究者などさまざまな分野からの専門家を中心に一般の方の参加もあり、また海外からの渡航参加者13名を含め連日ともに100名弱の参加を得るなど、本テーマに対する関心の広さが実感された。

日時：2017(平成29)年3月4日(土)・5日(日)10:30～17:30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：99名(4日)、86名(5日)

発表者および題名(発表順)：

小林公治(東京文化財研究所)「南蛮漆器の多源性を探る 問題点の把握と提起」

岡美穂子(東京大学史料編纂所)「ポルトガル人のアジア交易におけるラッカー塗装工芸品と材料についての史的考察—シェラック、螺鈿、漆、蒔絵を中心に—」

宮里正子(浦添市美術館長)「古琉球期の漆文化～大交易時代にみえる漆芸について～」

小林公治・吉田邦夫(東京大学総合研究博物館)「南蛮漆器の制作年代」

本多貴之(保存科学研究センター)「南蛮漆器に使われた漆・接着剤」

吉田邦夫「南蛮漆器に用いられた漆の産地を推定する」

能城修一(森林総合研究所)「南蛮漆器に使われた木材」

黒住耐二(千葉県立中央博物館)「南蛮漆器に用いられた貝類に関する予察」

クリスティヌ・グーテ(ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館)「16世紀後半から17世紀前半の日本漆器に使われた「鮫」皮」

末兼俊彦(東京国立博物館)「17世紀における日本系金具について」

ウルリケ・ケルバー(エヴォラ大学)「南蛮漆器と密接な関係を持つ、インドおよび中国製のポルトガル・アジア様式漆塗り調度類」

神谷嘉美(東京都立産業技術研究センター複合素材開発センター)「南蛮漆器を彩る“金色線”の形状と材質」

総合討議：すべての発表後、小林の司会・進行により、上記発表者による総合討議を行った。

刊行物 予稿集を刊行した(刊行物の項に記載)。

無形文化遺産部

第11回無形文化遺産部公開学術講座(①ム01の一部として実施)

2017(平成29)年1月18日、学校法人文化学園文化学園服飾博物館において、「麻のきもの・絹のきもの」と題して公開学術講座を行った。入場者数177名。学校法人文化学園文化学園服飾博物館共催。

プログラム

【趣旨説明】菊池理予(東京文化財研究所)「文化財保護における麻のきもの・絹のきもの」

【報告Ⅰ】舟木由貴子(昭和村からむし生産技術保存協会)「からむしの技術伝承—昭和村での取り組み—」

【報告Ⅱ】吉田智哉(東吾妻町教育委員会)「大麻の技術伝承—岩島での取り組み—」

【報告Ⅲ】林久美子(岡谷蚕糸博物館)「繭から糸をつくる」

【講演】菊池健策(東京文化財研究所)「民俗における 麻のきもの・絹のきもの」

【展覧会解説】吉村紅花(文化学園服飾博物館)「展覧会『麻のきもの・絹のきもの』の企画を通じてみた麻と絹の現状」

【エクサージョン】展覧会「麻のきもの・絹のきもの」
(文化学園服飾博物館)



公開学術講座 展覧会解説

無形文化遺産部

無形民俗文化財研究協議会 (①ム02の一部として実施)

無形文化遺産部では、無形民俗文化財の保存・継承に寄与することを目的として、毎年無形民俗文化財研究協議会を開催している。第11回にあたる本年度は「無形文化遺産と防災—リスクマネジメントと復興サポート」をテーマとし、無形民俗文化財の防災をどのように行うべきか、さまざまな角度から報告・討議を行った。その成果は報告書として刊行した。

日時：2016(平成28)年12月9日(金) 10:30～17:30

会場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：124名

テーマ：「無形文化遺産と防災—リスクマネジメントと復興サポート」

内容：【発表】

東資子(一関市教育委員会)「岩手県大船渡市から考える無形文化遺産の防災」

大本敬久(愛媛県歴史文化博物館)「四国の災害特性と無形文化遺産の防災」

大河内智之(和歌山県立博物館)「文化遺産の複製と信仰環境の維持—防犯対策の事例から—」

岡部達也(宮本卯之助商店)「祭礼具から考える無形文化遺産の保持」

【総合討議】上記報告者と下記コメンテーター、コーディネーターによる総合討議を行った。

コメンテーター：村上裕道(兵庫県教育委員会)、林 勲男(国立民族学博物館)

コーディネーター：久保田裕道・今石みぎわ(無形文化遺産部)

総合司会：飯島満(無形文化遺産部)

保存科学研究センター

「保存と活用のための展示環境」に関する研究会 (②ホ02の一部として実施)

展示照明には、展示物の変質を防ぐことと高い鑑賞・調査の質を維持することの両立が求められる。博物館等において、従来光源とは大きく性質の異なる白色LEDへの転換が進む中で、また近い将来の有機ELの普及を見据え、これら新世代照明のもとでの展示はどのようにあるべきか検討を行ってきた。本研究会では、「次世代の美術館・博物館照明の技術指針」のあり方、考え方について、様々な角度から取り上げたものである。

「保存と活用のための展示環境」に関する研究会

“次世代の美術館・博物館照明指針を考える—LED・有機EL照明の活用に向けて—”
 (主催：東京文化財研究所 協賛：一般社団法人照明学会)

日 時：2017(平成29)年2月20日(月) 13:30～17:30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：152名

講演者：佐野千絵(東京文化財研究所)「技術指針策定の目的」

吉田直人(東京文化財研究所)「LED使用状況に関するアンケート結果」

—美術館・博物館照明の要件と性能基準—展示物の保全と見えの観点より—

佐野千絵「展示物の保護」

吉澤望(東京理科大学工学部、客員研究員)「照度と輝度対比、展示空間へのアプローチ」

溝上陽子(千葉大学大学院融合科学研究科)「光色と演色性」

吉塚奈月(パナソニック)「配光・グレア」

—美術館・博物館照明の具体的指針—

木下史青(東京国立博物館)「仕様基準」

藤原工(東京理科大学工学部、客員研究員)「照明空間の作り方」

撥田隆治(パナソニック株式会社)「照明の保守および測定方法」

保存科学研究センター

第30回近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会 (②ホ06の一部として実施)

近代化遺産保護の進展に伴い、煉瓦等を用いた組積造建造物の震災対策の重要性が、年々高まっている。一方、当該分野では、近年様々な技術が開発され、対策の選択肢も増加している。本研究会では、組積造建造物の耐震対策に関する豊富な経験を有するイタリアから専門家を招き、イタリアの状況とわが国の近年の動向について比較検討を行うことで、今後の耐震対策の方向性を探るための糸口を探った。

第30回近代文化遺産の保存理念と修復理念に関する研究会

—日伊における歴史的な組積造建造物の震災対策について—

日 時：2017(平成29)年2月23日(木) 13:30～16:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：33名

講 演：クラウディオ・モデナ(イタリア・パドヴァ大学教授)「伊国における震災対策」

西岡聡(文化庁文化財調査官)「日本国における震災対策」

文化財情報資料部

総合研究会(シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。平成28年度は下記のスケジュールで実施した。

- ・第1回 2016(平成28)年4月5日(火)
発表者：山梨絵美子(副所長)「黒田清輝の画業—フランス/日本の移動の観点から」
- ・第2回 2016(平成28)年6月7日(火)
発表者：石村智(無形文化遺産部)「気候変動に立ち向かう文化遺産」

- ・第3回 2016(平成28)年7月5日(火)
発表者：安永拓世(文化財情報資料部)「売立目録のデジタル化事業について」
- ・第4回 2017(平成29)年1月10日(火)
発表者：前川佳文(文化遺産国際協力センター)「壁画と保存修復の世界」
- ・第5回 2017(平成29)年2月7日(火)
発表者：北河大次郎(保存科学研究センター)「近代化遺産の世界」

文化財情報資料部

文化財情報資料部研究会(シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。2016(平成28)年度の開催内容は下記の通り。

- 4月21日(木) 角田拓朗(神奈川県立歴史博物館)「黒田清輝宛五姓田義松書簡を読む—作家像、東京美術学校、明治洋画史—」
- 5月31日(火) 西木政統(東京国立博物館)「滋賀・鶏足寺七仏薬師如来像の造像をめぐる一考察」
- 6月28日(火) 田所泰(東京文化財研究所)「栗原玉葉に関する基礎研究—その生涯と作品について—」
コメンテーター：五味俊晶(長崎歴史文化博物館)
- 8月30日(火) 田中潤(東京文化財研究所)「黒田清輝宛、養母黒田貞子書簡の翻刻と解題」
- 10月 3日(月) 山村みどり(日本学術振興会特別研究員)「広島で地球を針治療する—口ベルト・ヴィリヤヌエヴァ、キャリア最後のエコ・アート—」
コメンテーター：後小路雅弘(九州大学)、中村政人(東京藝術大学)
- 10月25日(火) 小林公治(東京文化財研究所)「慶長期後半から寛永期前半にかけて流行した漆器文様・技法—絵画資料と伝世漆器との対話—」
- 12月 8日(木) 椎野晃史(福井県立美術館学芸員)「黒田清輝宛山本芳翠書簡 翻刻と解題」
- 1月12日(木) 小山田智寛(東京文化財研究所)「WordPressを利用した動的ウェブサイトの構築と効果：ウェブ版「物故者記事」および「美術界年史(彙報)」を事例として」
田所泰(東京文化財研究所)「栗原玉葉の画業におけるキリスト教画題作品の意義」
- 1月31日(火) 河合大介(東京文化財研究所)「《模型千円札》をめぐる赤瀬川原平の理論形成に関する予備的考察」
コメンテーター：水沼啓和(千葉市美術館)
- 2月24日(金)「甲賀市藤栄神社所蔵の十字形洋剣に対する検討」
永井晃子(甲賀市教育委員会)「藤栄神社蔵十字形洋剣をめぐる歴史的経緯」
小林公治(東京文化財研究所)「藤栄神社に伝わる十字形洋剣(レイピア)の実在性と年代の検討—博物館コレクション・出土資料・絵画資料による予察—」
末兼俊彦(東京国立博物館)「藤栄神社所蔵の洋剣について」
池田素子(京都国立博物館)「藤栄神社蔵十字形洋剣 X線CTスキャンおよび蛍光X線分析について」
原田一敏(東京藝術大学)「藤栄神社蔵十字形洋剣について—海外資料との比較—」
- 3月28日(火)「遊行上人縁起絵の諸相」
津田徹英(東京文化財研究所)「詞書の筆跡からみた遊行上人縁起絵—伝世諸本の位相—」
本多康子(渥美国際交流財団)「金蓮寺本 遊行上人縁起絵について」
井並林太郎(京都国立博物館)「遊行上人縁起絵諸本の絵相について」
遠山元浩(遊行寺宝物館)「遊行上人縁起絵に描かれた真教と情景の一考察」
梅沢恵(神奈川県立金沢文庫)「一遍聖絵と遊行上人縁起絵における図様の共有」